

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490500184		
法人名	合資会社 三重福祉会		
事業所名	グループホームなごみ苑		
所在地	津市豊ヶ丘2丁目4-5		
自己評価作成日	R4年2月10日	評価結果市町提出日	令和4年5月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiqokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovyoCd=2490500184-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活空間と日常支援、日々に必要な生活行動をスタッフと家族関係に近い支援を行っている。また、地域の自治体に所属し、以前は、地域活動やイベントへの参加をしている。今はコロナ禍のため参加ができていないが、コロナが落ち着けば、新しい出会いと喜びを見い出す(心のケア)を目指している アットホームなグループホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

合理的で機能的な生活環境を目指すグループホームが多い中で、それとは一線を画す運営が行われている。合理的で機能的なグループホームでは利用者との負担軽減になるが、病室や寮のようなグループホームもあり、特に全員一緒にスケジュールが細かく決められていると時間に追われて生活しているようになるが、必要最低限の支援以外は利用者のしたいような時間管理が優先されている事業所である。大型住宅団地にあるので静かで落ち着いた普通の家に訪問しているような錯覚にもなりやすい暖かい家庭的な雰囲気がある。生活保護受給者を受け入れないグループホームが多い中で受け入れているので地域密着の貢献度が高い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ全体の理念の共有。なごみ独自の理念の見直しR2.6.22に新しく作成して(利用者様本位の生活と和みある支援)を実践につなげている。	事業所開設以来グループ全体の会社理念しかなかったが、グループホームとしての理念を令和2年に新しく作成、実践している。申し送りや会議で職員が理念に沿った行動ができるように情報共有している。そのことが利用者の立場に立って支援する生活空間を作り出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治体に所属しており、コロナ禍の為、夏祭りや公園の掃除に参加、幼稚園の行事の参加が出来ていないがコロナが治まれば再開できる。地域の二丁目自治会・黄旗を、掲げている。	コロナ禍で対外交流は控えているが、それまでは幼稚園との交流があった。運動会に呼ばれて弁当まで出してもらったこともある。自治会の行事で現在も安否確認の練習で黄旗を掲げたり、回覧板を回したり、挨拶など日常的なことはしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での話し合いにより地域へ情報配信や自治会の行事に参加することで認知症への理解に務めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の自治会長、津市の介護保険担当員、北部包括センター等の参加で2か月に一回外部との現状と困りごとの意見交換行っているがコロナ禍の為現状報告としている。	生活委員・市役所・包括支援センター・自治会長が参加して行うのが通常であるがコロナ禍で中止、現状報告を文書でしていた。令和3年12月に1度再開したもののコロナの現状に伴い中止が続いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者様に運営推進委員会への参加の依頼をして、相談しながらホームの運営に務めている。	運営推進会議に参加した時に現状報告や相談をしているが、現在中止しているので、介護認定申請時に訪問して現状報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全の為、玄関は施錠しているが、身体拘束は”0”です。身体拘束委員会を立ち上げ、代表者会議やスタッフ会議による注意喚起をしている。	半年に1回、各事業所の管理者が集まる代表者会議で身体拘束委員会を兼ねているのが現状である。事故防止のため玄関や居室窓のロックが行われている。	事業所独自の身体拘束委員会を立ち上げ、指針に基づいた研修や勉強会、研修を3か月に1回以上実施し、記録の保管・管理の徹底を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	メディアの情報など身体拘束委員会で情報共有をして、スタッフ会議や代表者会議で議論している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者は居ない、知識が薄いため今後のためにも新しい知識を得るようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明と時間をとり理解と納得を得た上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しているが直接スタッフに伝えられ、苦情には速やかに対応している。	利用者の家族の半分は、広島や横浜の遠方であるので面会による要望は少ない。事業所で金銭管理もしているので、家族からの要望で病院の送迎をしたり、アンダーシャツを購入したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務開始前の申し送り、代表者会議やスタッフ会議での意見交換。業務日誌や全体ノートの活用にて、全員が周知徹底できるようにしている。	全体ノートと呼んでるノートに日々、変化や気づいた点を記入している。申し送りや月1回の全体会議で意見交換や情報共有しており、運営に反映している。プリストルスケール(診断医療ツール)を導入して体調管理に活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各個人の意見等を取り入れ現場に活かし各自の向上心を持って働けるような施設を作っている。勤務希望を聞き入れたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部から受講案内を挙げてもらっており、受講する機会を設けているがコロナ禍のため外部への研修はできずZOOMでの参加となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での交流は、山水相談室を設け他施設との交流、実務調査を兼ねての訪問など積極的におこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にも施設の見学をしていただく。施設見学が困難な場合は、実務調査を行い、家族、本人と十分に話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や面会時の時にはご家族の思いに耳に傾け、信頼関係を築ように務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様、その家族様から話を聞き、何を求められているのかを知り、それをサービスに繋げるように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の残存能力を活かし職員が寄り添いながら一緒に暮らす姿勢で支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や必要時の電話連絡の際に利用者様のご様子をお伝えし、相談を行いながら、職員と一緒に利用者様を支援して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため外出は控えているが、コロナ禍のため面会は短時間、家族様には必ず検温と消毒徹底させて頂いている。	コロナ禍で外出することは控えており、家族面会も玄関での短時間である。回想法として昔の歌を歌ったり、ことわざカルタを使って馴染みの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の間人間関係が円滑になるように職員が見守り、関わり合い支え合える様に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了後も必要に応じ、相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や思いを傾聴し、意向に添える様に務めている。また困難な場合は家族に支援をお願いしている。	会話から得られた情報は申し送りしたり、個人カルテに記入して介護計画に反映することもある。利用者に食事メニューを白板に書いてもらったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様一人一人の生活歴や今までの暮らし方を把握して生活環境を整え安心しその方らしい生活ができるように務めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カルテに記載して申し送りで共有して一人ひとりの心身状態を把握して生活環境を整え安心しその方らしい生活ができるように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身の状態の観察を行い、小さい変化にも職員間で報連相を行い、ケア会議を行いその時々々の現状に応じた介護計画を作成している。	モニタリングを1カ月に一回、3カ月ごとに見直しをしている。変化があればその都度見直しを行っている。家族とは手紙でのやり取りが中心である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテ記録に内容の実践、取り組み、気づき等を記入し、職員同士で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	連携病院があり、急変時には連絡がとれ対応することができる。同グループ内での移動も可能。マニュアルに束縛されず柔軟性をもって個々の希望に沿ったサービスの提供に務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍のため 地域保育園行事への参加出来ない状態である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と緊密に関係を築き、受診、月2回の往診、夜間時の急変時にも対応して頂ける様している。	消化器内科の医師が定期健診で月2回来所しており、往診も可能である。その他の精神科や皮膚科には家族同伴か、職員が付き添い受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に相談、往診時にも相談や指示を仰げる体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報書を作成し、情報の共有ができるようにしている。利用者の入院時は、安心して治療に専念できるように家族、病院関係者と情報交換し、早期に退院できるように関係作りに取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様へご報告、緊急時の対応など早い段階で報告相談、更に毎日の申し送りにて緊急時の対応をスタッフに伝え周知させている。また、協力医への報告もしており万が一の連絡も確保している。	重度化した場合には協力医と家族の話し合いの上、医師の指示に従い家族からの要望通りに対応している。看取り希望にも対応可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医の元、急変時の対応、感染症に対する処置等を学び日々訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練例を全職員で行っているが、コロナ禍のため消防の出向はできない状態である。	防災訓練を年2回、そのうち1回は夜間対応としている。自治会のシェイクアウト訓練(一斉防災訓練)は年4回行っている。災害時の水はタンクに確保しており、食料も業者からのレトルト料理が備蓄対応となっている。BCPと災害マニュアルの作成を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護をしているのではなく、お世話させて頂いているとの精神で一人一人の人格を尊重し、その方の性格等把握し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。	「利用者様本位の生活と和みのある支援」の理念を実践することが、一人ひとりの尊重とプライバシーの確保になっており、特に言葉かけに配慮している。身体汚染時には周囲に気づかれないように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が気兼ねせず、希望や想いを発言できるよう働き掛け、自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様、一人ひとりの体調・気分を把握し、その日どのように過ごしたいか本人の希望に沿った支援を心がけている。レクも全職員参加でしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に季節や過度なことがない限り、個人の好みに合わせて支援している。二か月に一回訪問理容をしております好みのカットを受けていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ごはん・汁物は職員で調理、副食はレトルトを使用。可能な限り利用者様とテーブル拭き、準備、下膳、行っている。	料理は業者から配送されるレトルト食品を湯煎し、ご飯や味噌汁を職員が作って提供している。行事食とおやつは職員が工夫して手作りにこだわっている。手作りの恵方巻や誕生日に食べたい物を聞いて出すようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりが食べる量・水分量を記録し、体調管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立できる利用者様にはお声かけで促す。支援の必要な方は見守り、マウスケアスポンジを使用し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立で排泄出来る方の見守りと介助が必要な方の排泄の表を使用し把握を行い、個々の能力に応じた排泄援助を行う事で、できるだけ自立に向けた支援を行っている。	排泄表に基づいてトイレ誘導している利用者が2名で、夜間のみオムツを使用している。自ら行ける方が2名である。最近は Bristol スケールで便の状態を確認することもしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	協力医と相談して、個々に応じた便秘予防と対応を行っている。必要に応じ、漢方薬や下剤服用で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調などを十分に観察して入浴への声かけをしている。ゆず湯・菖蒲湯など季節も感じられるよう取り入れている。	週2回、午前中の中の入浴である。入浴剤は使用しないが、ゆず湯や菖蒲湯は楽しんでいる。	週2回の中の入浴であるが、健康促進にもつながることと考えるので回数を増やすことを期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や十分な睡眠がとれる様に、状況に応じた衣類・室温調整を行い安息を知って頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・副作用・容量をスタッフで共有して理解し、症状の変化に気を配り医療連携を基に常に医師との協力をを仰ぎ服薬支援に努めている。薬局と薬剤師とも連携服薬指導や情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	スタッフと一緒に楽しむことにより信頼関係を築き、レクで作成や食事やTVで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出出来ていない為、晴天時には玄関先のベンチで過ごしたり、気分転換を図っている。面会は蔓延防止のため、緊急時以外は面会はなるべく外での対応としている。	コロナ禍でほとんどの行事が中止されている。4月に桜を観に外出した以外は、散歩も寒くてしてないのが現状である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様で管理のできる方には所持していただいているが、コロナ禍で外出でお金を使う様にしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の方への電話連絡等は本人の希望に応じ、いつでも電話出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者や面会に来られた方が不快な思いをさせることなく音量や障害物に配慮し、観葉植物の配置や季節を感じられるような物品の配置を行い居心地よく過ごせる様に努めている。	玄関からすぐに居間兼食堂となっており、来訪者が元気な利用者と会話出来る、昔風の家庭的な作りとなっている。陽光が良く入る明るい雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の考慮と空間づくりをしており、制作の展示や行事の写真を展示している。それぞれの居場所(食堂・居間)でゆったり過ごせる様に腰掛やテーブルを配置し、自由に居心地よく過ごせる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人に合わせて、ベッドの配置や棚の配置、飾りをしていただいている。使い慣れた家具を置き、温度や湿度に気をつけてゆっくり過ごせる自室となっている。	クローゼットやエアコンなど基本的な物は統一されているが、各居室は画一的な作りではなく、其々広さが異なり各自思い思いにベッドが配置されて個性的な過ごし方をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人に応じての居室の配置、名前による目印を使用し迷いによる不安がないようしている。利用者の安心・安全に心がけ、日時が分かる様にカレンダーを配置、階段には手すりをつけ、その方の能力に応じスタッフの見守りを行っている。自立した生活が出来るように環境作りを行っている。		